

(対象児童は3年生以上、対象保護者はP数)

No.	評価項目	課 題 ☆R5重点努力事項	重点課題	対 策	三者平均評価
1	夢① 家庭学習	保護者は時間を決めて確実に取り組んでいると思っていないと感じる回答が多い。評価2.8	☆	★ 「ゆりのきっ子ノート」の見取りとその活用に関して、より保護者と連携した家庭学習となるよう改善を図っていく。	3.3
2	夢② 子供主体	保護者は授業中友達と交流しながら考えたり、発表したりできていないと感じている回答が多い。評価2.9		★ 授業中の対話場面や表現する場面の設定及び手法などの共有。	3.2
3	夢③ 知識技能	約30人ほどの児童が、授業がわからない、あまりわからないと言っている。昨年から10人ほど増えた。		松橋小7つのチェックリストを意識した授業改善や教職員同士で行っている学び合いの場面の更なる設定。	3.3
4	夢④ 個に応じた指導	保護者はお子さんが、学習に対して自分なりに工夫し、興味関心に合わせた課題に向かっていると感じている。		★ 保護者に対し、「ゆりのきっ子ノート」の見取りを促し、お子さんの家庭学習への関心を高めるとともに、わくわくタイムやうきうきタイムの啓発を図る。	3.2
5	夢⑤ 学習規律	三者とも3.3以上と高い評価を得ることができた。		発表を聞くことに対する土台ができてつつある。これを、発表への返しにつなげていく。	3.5
6	夢⑥ ICT	児童の意識がもっとも高まり3.5の評価であった。職員であまりあてはまらないと答えた人が二人いた。		担任間の活用能力の差を少なくできるよう、職員間の学び合い、ICT支援員の更なる活用を促していく。	3.3
7	笑① あいさつ	R4に比べ職員の意識が0.7ポイント上昇したことを受け、児童の評価も0.2ポイント上昇。保護者は昨年同様3のまま。	☆	★ 職員や地域が求めるレベルにスムーズに引き上げられるよう、合格点の基準の共有を図る。地域の方に対してのあいさつレベルを向上させるよう努めていく。	3.3
8	笑② 支持的風土	概ね高い数値であるが、35人の児童は、学級が安心できる場所になっていないと答えている。		全ての児童に学級で役割を与えていけるように、学級活動の充実や人権・道徳の授業との関連を更に図っていく。	3.4
9	笑③ 人権・道徳	概ね良好であるとの評価を受けた。		人権や道徳の授業を自分のこととして学ぶことができている。それを日常生活に実践できる姿を認めたり褒めたりしていく。	3.5
10	笑④ いじめ・不登校	不登校傾向の改善が見られた児童もいる一方、不登校傾向になりつつある児童も見受けられる。		組織的対応の継続及び、愛の1・2・3+1運動の更なる徹底。	3.3
11	笑⑤ 言語環境	児童の意識が2.9ポイントと一番低い。「さん」を付けて呼ぶことに対しての意識に課題が見られる。		★ 状況に合わせて、「さん」で名前を呼ぶことを全員で徹底していくことや、公共の場に応じた言葉遣いの意識を更に高めていく。	3.1
12	笑⑥ 無言掃除	職員の評価が1ポイント上昇したことを受け、児童も0.3ポイント上昇した。		学校全体で無言掃除を徹底できるように、職員全員で取り組んだ結果がでている。この取組を続けていく。	3.3
13	元① 立腰	昨年度に比べ、児童0.1ポイント保護者0.3ポイントの上昇が見られるがまだまだ伸びしろがある。	☆	★ 座り方の基準を各学年の発達段階に応じて決め、それを徹底して取り組んでいく。その姿を授業参観で見せられるようにしていく。	3.0
14	元② 食育	保護者の評価が低い。学校での学びを家庭で生かしていないという評価。		★ 学校で行っている食育について、更なる周知をホームページやアプリ、学級学校だより等で図っていく。	3.1
15	元③ むし歯	概ね良好であるとの評価を受けた。		保護者に対し、病院受診の目的、伝える時期、回数等を考えていく。	3.4
16	元④ 生活習慣	早寝・早起き・朝ごはんに関する自己評価は高い。		朝ごはんや就寝の時間等に課題がある児童に対して、これまでどおり、粘り強くて確かな声かけや手法の提案を続けていく。	3.3
17	元⑤ 外遊び	他の項目に比べ、保護者・児童の評価が低い。		★ 遊ぶ場、遊び方、環境づくりについて、授業の日常化や委員会活動の更なる充実を図っていく。	3.0
18	元⑥ 安全教育	概ね良好であるとの評価を受けた。		安全点検の方法の更なる改善、ボトムアップ研修の充実を図っていく。	3.5
19	他① 開かれた学校	昨年度とほぼ同水準の評価を受けた。		地域人材活用カレンダーや地域学校協働活動推進員の活用。	3.3
20	他② 情報発信	昨年度のほぼ同じ水準の高い評価を受けた。		学校だより・ホームページによる発信の継続及び内容の充実。	3.5
<p>運営協議会員の御意見</p> <p>・「あいさつ」に関しては、全体的に元気な声であいさつができるようになってきた。更に、「ありがとうございます」「行ってきます」などのあいさつを通してコミュニケーションを図ることができるようになってきた。今後も高学年がリーダーシップを発揮し、学校全体であいさつの励行に取り組んでいただきたい。</p> <p>・家庭学習に関しては、高学年になるにつれて、音読を聞いてほしいと言ってくるお子さんが減りがちである。宿題の見取りを含め保護者も子どもの家庭学習に対してより一層見取っていくことも大切になる。</p> <p>・「ぐーべたぴん」がとてよかったクラスが低学年にあった。この取組や姿勢に対する子どもたちの意識が全校にもっと広がってほしい。</p> <p>・外遊びは、保護者としても遊ばせたいが様々な事情で遊ばせにくい状況がある。学校の様々な場面で外遊びを励行する取組はありがたい。</p>					